

## 事前評価個表

整理番号	75
------	----

地域（地区）名	那賀・海部川流域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	徳島県	対象市町村	美波町ほか4市町
事業実施期間	H23 ～ H27（5年間）	事業実施主体	県、市町、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>那賀・海部川森林計画区は、徳島県の南部に位置し、北は剣山より東西に延びる諸連峰により吉野川森林計画区と境し、東南は紀伊水道及び太平洋、西は高知県と接している。</p> <p>本計画区の総面積149,925haのうち、森林面積は128,304ha（森林率86%）であり、その内訳は国有林5,806ha、民有林122,469haとなっている。また、計画区内の林道延長は602,393mで公道等を含む林内道路密度は12.2m/haとなっており、このほかに林道の支線としての作業道が整備されている。</p> <p>一般民有林は、スギ、ヒノキを主体とした人工林が86,475ha（人工林率71%）であり、うち10齢級以上のものが45%を占め、森林資源は本格的な利用の時期を迎え間伐から主伐へと向かっている。しかし、このような森林の中にも森林整備の担い手不足や木材価格の低迷、森林所有者の代替わりなど様々な要因による放置森林が多くあり、これらの未整備森林の解消のため整備が必要である。</p> <p>このため、那賀・海部川流域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づく森林整備及び路網整備を推進する必要がある。</p> <p>本計画に基づき、森林の配置や齢級構成に応じ森林整備や路網整備を行うことによって、森林の有する多面的機能の発揮が可能となる。また、これらの整備に関する地元関係者の意欲は高く、コスト縮減を踏まえて実施することとしている。</p> <p>なお、他産業との連携等に関しては、農耕地の多くが森林に近接していることから、農林業の振興、農林道の整備において関係部局等との連携を図っている。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：14,030ha 人工造林、下刈り、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：3,907,386千円</p>
費用対効果分析結果	<p>B/C = 8.50 (総便益(B) = 75,731,518千円、総費用(C) = 8,905,832千円)</p>
評価結果	<p>必要性：整備対象森林の状況、森林整備の緊急性等から当該計画の必要性は高いと判断される。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：森林施業を効率的に推進することにより公益的機能の発揮と木材の安定供給が図られ有効である。</p> <p>本計画では、森林の多面的機能を発揮するために必要な森林整備が適切に計画されている。また、効率性、有効性も認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

## 便 益 集 計 表

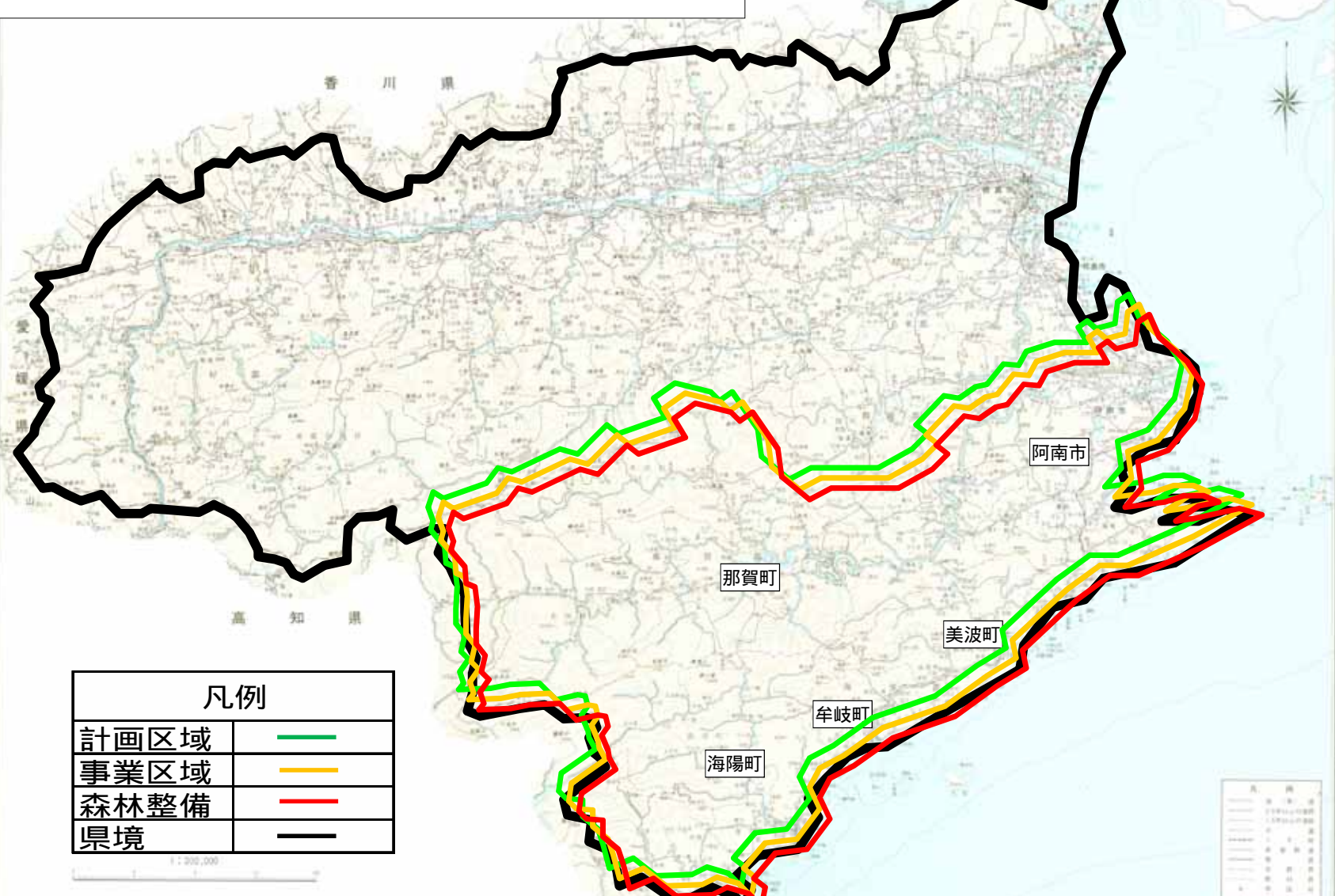
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業  
 地域名: 那珂・海部川

徳島県  
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	13,302,766	
	流域貯水便益	9,578,157	
	水質浄化便益	16,104,628	
山地保全便益	土砂流出防止便益	28,009,927	
	土砂崩壊防止便益	21,926	
環境保全便益	炭素固定便益	1,037,613	
木材生産便益	木材生産確保・増進便益	7,676,501	
総 便 益 (B)		75,731,518	
総 費 用 (C)		8,905,832	
費用便益比	$B \div C = \frac{75,731,518}{8,905,832} = 8.50$		

# 森林環境保全整備事業 那賀・海部川流域（徳島県）概要図



凡例	
計画区域	—
事業区域	—
森林整備	—
県境	—